

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター花りんご		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 22日		～ 令和8年 1月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25人	(回答者数) 23人
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 13日		～ 令和8年 1月 19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 12日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日頃からお子さんの状況を保護者と伝え合い、発達の状況や課題について共通理解を持っています。	連絡帳に活動の様子がわかる写真を貼付して伝えると共に、家庭での様子を伺っています。また、課題と考えられることを伝えることも意識して行っています。	お子さんの発達について、心配していることや困っていることを保護者が伝えやすいように、こちらからの情報発信を積極的に行い、保護者と共に支援に向き合います。
2	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しています。	業務改善について委員会にて検討し、事業所会議で報告しています。	人事考課制度での目標面接を活用し、業務改善についての意見をくみ取ること、改善についての提案が行動に移しやすいようにします。
3	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしています。	ヒヤリハットの事案を都度共有し、再発と事故防止について検討しました。	様々な状況における事故などについて情報収集し、ヒヤリハットになる以前に防止できるよう情報を共有します。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士で交流する機会を設ける等の支援ができましたが、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援もはできませんでした。	きょうだい同士で交流ができるよう、活動を計画していましたが、計画が変更となり実施できませんでした。	保護者同士、きょうだい同士が楽しく交流し、つながりを感じられるような機会を作ることを検討します。
2	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会がありませんでした。	外部研修でペアレント・トレーニングについて学んだものの、具体的な実施日時を年度初めに設定できていませんでした。	ペアレント・トレーニングについて学んだことが実践できるよう、具体的な実施日時の調整を行い、研修の機会を作ることを行います。
3	定期的に通信等を発行することや、HPを活用することにより、活動概要を発信することはできましたが、地域の中で中核的な役割を担うことについての発信が十分にできませんでした。	定期的に広報誌を発行し、HPでの情報発信にも力を入れてきましたが、お子さんや保護者に対して発信する内容と共に地域に向けての発信を再検討する必要があります。	発信する内容について職員間で意見を出し合うこと、行政に相談しながら取り組みます。

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 児童発達支援センター花りんご

公表日 令和8年 3月 2日

利用児童数 令和8年 1月 16日 回収数 23

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	23					活動内容によっては人数を分けて利用するようにして、スペースを確保しています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	20	1		2	子どもへの個別対応ができています。	職員の配置は基準を満たしています。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	20	1		2		お子さんが視覚的にわかりやすいように、イラストで情報を示す等の工夫をしています。また、必要に応じて玄関にスロープを設置できるようにしています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	22			1		感染症予防対策を毎日行っています。お子さんが集中できる環境を作ったり、集団活動ができる空間を確保しています。
適切な 支援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	22	1			子どものペースに合わせて支援してもらっていると感じる。	情報収集や研修を重ねて専門性の向上に努めます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	23				連絡帳を通じて、支援内容と子どもの様子を知らせてもらっている。	支援プログラムに沿った支援を行います。
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	23					お子さんの状況と保護者のご意向に引き合せて支援計画を作成し、わかりやすい説明に努めます。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	23					お子さんご家族の支援に必要な項目について、具体的な支援内容を設定することに努めます。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	23					日々の様子を連絡帳を通じてわかりやすく説明することに努めます。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	23				様々な活動をしていると思う。	お子さんの成長に応じて、活動が固定化しないようにします。
	11 保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	16				7	子ども園と併用している。子ども園と事業所の交流があるかわからない。
保護者 への 説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	23					契約時に丁寧に行っています。変更がある際には改めて説明しています。
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	23					丁寧に説明するよう努めています。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	18	3		2	職員との面談の機会が増えると良い。	ご家族が参加できる研修会や情報提供の機会が行われるよう、ペアレント・トレーニングについての研修を強化して、家族支援につなげます。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	22	1			連絡帳で伝え合うことができています。	共通理解のため、連絡帳や必要に応じて直接伝え合うことを継続していきます。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	22	1			職員との面談の機会が増えると良い。	心配事や困りごとをくみ取り、助言する機会を増やします。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	23					心配事や困りごとをくみ取り、保護者の想いに寄り添います。
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	17	3		3	親子交流会で、親同士の交流ができて良かった。	きょうだいへの支援について開催できていないので、家族支援ときょうだい支援の開催を検討します。	

	19	子どもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	20	3			契約時に丁寧に説明を行うとともに、相談や申し入れがあった際には迅速に対応することに努めます。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	23				連絡帳に写真を貼り、支援内容の様子が伝わりやすいようにしています。また、保護者からのご要望等についても、いつでも連絡をいただけるようお伝えしていきます。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	22			1	定期的な広報誌の発行と、ホームページでの情報発信を継続していきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	23				法人の規定に基づき対応しています。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	22			1	保護者には契約時に説明しています。発生を想定した訓練を実施しています。各対策（対応）マニュアルについては更新が随時あるため、その都度周知するように努めます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	23				毎月1回、非常災害時を想定した避難訓練を実施しています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	22			1	安全計画を周知し、安心して支援を受けられるよう努めます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	23				電話で連絡をもらっている。 怪我等が発生した際は、保護者に速やかに連絡し、状況などを説明することを継続します。合わせて、怪我等が発生した原因を探り、再発防止に努めます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	22	1			行きたくないと言うことがあっても、行ってしまおうと楽しく過ごしているようだ。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	22	1			・お昼寝が嫌だと言っている。 ・通所する日の朝、「やったー」と嬉しそうにしている。
	29	事業所の支援に満足していますか。	20	3			希望する回数の利用がかなわなかった。 多機能事業所としての定員に対して、ご希望に添うことが十分にできませんでした。今後の動向を予測して受け入れ態勢が整えられるよう努めます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援センター花りんご		公表日		令和8年 3月 2日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		手狭になる場合は活動人数を分けて利用するよう工夫しています。	定員に対しては基準を満たしていますが、日により活動人数を分けて今後も実施します。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		障がい特性に応じられるよう協力しながら行っています。	安全に支援するために職員の負担が大きくなることもあります。年齢や障がい特性に配慮した配置となるよう、勤務の調整と質の向上に努めます。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		視覚的にわかりやすく工夫したり、必要に応じてスロープを設置できるようにしています。	安全に配慮した空間になるように環境を整えていきます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		感染症予防対策を毎日行っています。	お子さんが個別療育に集中できるよう、環境を整えるための工夫をします。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		障害特性に応じ、必要に応じて場所を変えることが柔軟にできています。	臨機応変に対応できるような環境を整えます。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		業務改善について委員会にて検討し、事業所会議で報告しています。	業務改善について提案しやすいようコミュニケーションを図ることを重視します。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		毎年保護者による評価アンケートを実施しています。	保護者からのご意見を尊重して業務改善につなげます。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		事業所会議のほかに、面談する機会を作っています。	職員の意見等を把握したうえで、委員会で検討します。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6			今年度は青森県による書面指導を受け、改善に努めています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		外部研修に参加したり、法人の研修会に参加しました。	外部研修に参加する機会を増やし、職員の質の向上に努めます。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		職員の意見を反映させた支援プログラムを作成しました。	令和8年3月中にホームページで更新したものを公表し、保護者に周知します。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		課題を客観的に分析して作成しています。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		ケース会議にて、お子さんの支援に関わる職員の意見を踏まえて検討しています。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		支援内容を基にして、毎週取り組む活動を確認しています。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		日々のお子さんの様子を保護者に伝えた際に、家庭での様子もうかがうようにしています。	標準化されたアセスメントツールの活用と合わせ、インフォーマルなアセスメントから得た情報により、お子さんに合わせた支援方法を見立てていきます。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		ガイドラインを基にしています。	より具体的な支援内容が設定できるようにアセスメントに力を入れます。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		活動案について、日ごろから話題に出しています。	スタッフ間で意見を出し合い、立案する機会を増やします。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		個別の支援内容の変化に応じ、固定化しないようにしています。		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		個別の状況に合わせて組み合わせた内容で作成しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		朝礼時に確認しています。	送迎等で朝礼に参加できない職員に対して、打ち合わせの内容を伝え、確認できるように努めます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		個別支援の記録を日々行っています。	送迎等で職員間での振り返りに不在となる場合でも、気付いた点等を共有できるよう、個別支援記録に残しています。当日中に共有できなかった部分は次の日に確認しあいます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		日々の記録をモニタリングで検証することにつなげています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		6ヶ月毎にモニタリングを行い、見直しています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		直接支援している職員から情報提供しています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1	黒石市の事業に協力し、保健師や公認心理士との連携に努めました。	地域の保育、医療機関と連携した支援を行う体制作りに努めます。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		必要に応じて行っています。	相互理解のためには十分な時間をとれないことがありました。丁寧に実施できるよう努めます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1	必要に応じて行っています。	電話で情報共有する機会がありました。丁寧に実施できるよう努めます。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	4	2		連携する機会を作ることができませんでした。事例検討等で地域全体の質の向上に資する取り組みができるよう努めます。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	3	3	協力医療機関の医師から助言を受け、支援の参考にしました。	積極的に研修を受ける機会を増やし、質の向上を図るよう努めます。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	6		参加しました。	積極的に参加していきます。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		6		交流の機会はありませんでしたが、希望者には交流の機会を検討していきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		連絡帳に活動の様子がわかる写真を貼付して伝えると共に、家庭での様子を伺っています。また、課題と考えられることを伝えることも意識して行っています。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2	ペアレント・トレーニングの外部研修で学んだことを実践できず、情報の提供のみ行いました。	家族支援を強化するにあたり、ペアレント・トレーニング等の研修の機会を作るよう努めます。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に丁寧に行っています。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		日常的なお子さんとのコミュニケーションから得た意思と、保護者から面談や電話、及び連絡帳を通じて確認しています。		
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		同意を得ています。		

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		保護者から相談があった際に相談支援を随時行っています。	定期的に行います。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		親子交流会を行い保護者同士が交流する機会をつくることができました。	きょうだいの交流会は開催できていないので、家族支援ときょうだい支援の開催を検討します。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		契約時に相談や各種申し入れの受付について周知しています。相談や申し入れがあった際は迅速に対応しています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		定期的に広報誌を発行し、ホームページでも情報発信に力を入れました。	活動などの発信と合わせ、行事予定や連絡体制等の情報の発信にも努めます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		法人の規定に基づき対応しています。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		それぞれにわかりやすいよう、表現方法に配慮しています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6		今年度はその機会がありませんでした。地域住民と交流する機会を検討します。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		保護者には契約時に説明しています。発生を想定した訓練を実施しています。	各対策（対応）マニュアルについては更新が随時あるため、その都度周知するように努めます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		毎月1回避難訓練を実施しています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		契約時に保護者から確認しています。服薬等に変更や追加がある場合に連絡をいただくよう周知しています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		契約時にアレルギーについて保護者から確認をしています。	医師の指示書が必要なお子さんはいませんが、成長とともに変化がないか、保護者と情報交換をして必要に応じて医師の指示書を求めています。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画を作成し、安心して支援を受けてもらえるよう研修と訓練をしました。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		安全計画を周知し、安心して支援を受けてもらえるよう努めました。	安全計画に基づく取組み内容を周知していきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハットの事案を都度に共有し、再発と事故防止について検討しました。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		外部研修に参加することと、セルフチェックを毎月行い、虐待防止委員会で内部研修をしています。	外部から支援に対しての意見を聞く機会を作り、適切な対応に努めます。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		身体拘束を行っておらず、児童発達支援計画に記載しているお子さんはいません。	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、万が一に備えて検討します。	